

乳癌 02

対象疾患:乳癌

【0202】EC 療法

【投与スケジュール】 1コース=21日

1コース

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W
エピルビシン	エピルビシン	DXR	90mg/m ²	↓ Day1			↓ Day1
シクロホスファミド	エンドキサン	CPA	600mg/m ²	↓ Day1			↓ Day1

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	ルート	薬品名	用量	投与時間
Day1				
①	主管	生理食塩液 250mL	1本	ルート確保～フラッシュ
	内服	アプレピタントカプセル 125mg	1カプセル	アドリアシン開始 60～90分前
②	側管	アロキシ 0.75mg	1本	30分
		デカドロン 3.3mg/1mL	3本	
		生理食塩液 100mL	1本	
③	側管	アドリアシン	60mg/m ²	全開で
		生理食塩液 100mL	50mL	
④	側管	エンドキサン	600mg/m ²	60分
		生理食塩液 250mL	1本	
Day2, 3				
	内服	アプレピタントカプセル 80mg	1カプセル/日	分1 午前中
	内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠/日	分2 朝・昼食後

※デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低 1mg まで)減量可

総投与量制限あり エピルビシン 900mg/m²まで

催吐性	高度リスク
組織傷害性	エピルビシン:壊死性 エンドキサン:炎症性
代表的副作用	エピルビシン >10%・・・骨髄抑制、悪心・嘔吐、食欲不振、口内炎、脱毛 1～10%・・・心毒性
	エンドキサン >10%・・・骨髄抑制、悪心・嘔吐、脱毛、出血性膀胱炎、不妊 1～10%・・・鼻閉、顔面紅潮、皮疹、頭痛 <1%・・・うっ血性心不全、不整脈、出血性心筋炎、心タンポナーデ、静脈性側性肝疾患

【注意事項】

(エピルビシン)

 総投与量 900mg/m²を超えない

(エンドキサン)

 揮発性が高く、接触や吸入によって、催奇形性や変異原性のリスクが他の抗がん剤に比べて高いので、被爆に注意する。側管から投与し、終了時は側管を抜かない。

 投与ルートは閉鎖式システムを使用すること。